

Sony Music Foundation 東日本大震災 復興支援プロジェクト

クラシック音楽を通して、東日本大震災で被災された方々・地域の復興を支援いたします。 詳細 www.smf.or.jp/charity

公演当日、会場に募金箱を設置します。募金と入場料収入の一部はRESTART JAPANファンドに寄付いたします。

小 中 高 校生のための

「第九」チャリティ・コンサート

ベートーヴェン：
交響曲 第9番 二短調 作品 125 〈合唱付〉
※演奏前に指揮者 小林研一郎によるおはなし付き

12/20 土 14:00開演
13:00開場

よこすか芸術劇場

(京浜急行汐入駅徒歩1分 JR 横須賀駅徒歩8分)

交響曲の第九



撮影:満田 聡

写真提供:横須賀芸術劇場

チケット【全席指定・税込】

小・中・高校生	S席 3,000円	A席 2,000円
保護者	S席 5,500円	A席 4,500円

プレイガイド

- イープラス eplus.jp
 - チケットぴあ t.pia.jp 0570-02-9999(Pコード:241-234)
 - 横須賀芸術劇場チケットセンター 電話予約センター 046-823-9999
- 先行発売(イープラス、チケットぴあ) 9月4日(木)~9月9日(火) 一般発売 9月11日(木)

※未就学児、保護者のみの入場はできません。
 ※公演当日、小・中・高校生は学生証または年齢を証明できるものをお持ちください。
 ※保護者は小・中・高校生と同時にご入場ください。

小林研一郎(指揮・おはなし)

日本フィルハーモニー交響楽団

木下美穂子(ソプラノ)

手嶋真佐子(アルト)

錦織 健(テノール)

青戸 知(バリトン)

東京音楽大学(合唱)



※やむを得ず、出演者、内容等が変更になる場合があります。予めご了承ください。

Sony Music Foundation は東日本大震災復興支援プロジェクトとして、 「『第九』チャリティ・コンサート」を今年も開催致します。

当財団は長年に渡り、次世代の子どもたちのためにクラシック音楽を通して様々な活動を行ってまいりました。

2011年3月11日 未曾有の災害で、特に傷ついた子どもたちを支援するには何が出来るかを考え、

世界中で愛されているベートーヴェンの「第九」交響曲のコンサートを通じて、復興支援活動を行っております。

チケット収入の一部と公演当日の募金は、「RESTART JAPAN ファンド」(公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンとソニー株式会社東日本大震災復興支援のため、子どもたちの支援の一環として設立)に寄付し、被災した子どもたちの支援活動に役立てます。

(寄付額は公演後、当財団HP www.smf.or.jp/charityにて公開いたします)



小林 研一郎 (指揮・おはなし) Kenichiro Kobayashi

東京藝術大学作曲科および指揮科を卒業。第1回ブダペスト国際指揮者コンクール第1位、特別賞受賞。世界中の数々の音楽祭出演や欧州のオーケストラを多数指揮。ハンガリー国立交響楽団音楽総監督、日本フィルハーモニー交響楽団音楽監督、アーネム・フィルハーモニー管弦楽団常任指揮者など国内外で数々のオーケストラのポジションを歴任。ハンガリー政府よりリスト記念勲章、ハンガリー文化勲章、民間人最高位の「星付中十字勲章」ハンガリー文化大使の称号が授与されている。2011年文化庁長官表彰を受ける。1999年には管弦楽曲『パッサカリア』を作曲。同年オランダで初演され大好評を博した。2002年にはプラハの春音楽祭オープニングコンサートを東洋人として初めて振るなど、最も活躍し注目されている指揮者。現在、ハンガリー国立フィル、日本フィルおよび名古屋フィルの桂冠指揮者、読売日響の特別客演指揮者、九響の首席客演指揮者、東京藝術大学、東京音楽大学およびリスト音楽院名誉教授などを務める。2012年7月より東京文化会館音楽監督に就任。2013年秋の叙勲で、これまでの功績により旭日中綬章が授与された。



日本フィルハーモニー交響楽団 Japan Philharmonic Orchestra

1956年6月に故・渡邊暁雄が中心となって創立された。現在は首席指揮者アレクサンドル・ラザレフ、桂冠指揮者小林研一郎、首席客演指揮者ピエトリ・インキネン、正指揮者山田和樹、ミュージック・パートナー西本智実をはじめとする充実の指揮者陣とともに演奏を行っている。「音楽を通して文化を発信」という信条に基づき、「オーケストラ・コンサート」、「リージョナル・アクティビティ」、「エデュケーション・プログラム」という三つの柱を打ち立て日々活動を展開。40年近くの歴史を誇る「夏休みコンサート」をはじめ、音楽によって子どもたちの創造性や協調性を高める創作ワークショップや全国で学校や施設での公演を行っている。また地元杉並区では「60才から楽器教室」といったシニア世代への働きかけも積極的に携わっている。2011年4月からはボランティア活動「被災地に音楽を」を開始、2014年7月までにその公演数は140回近くを数えている。

木下 美穂子 (ソプラノ) Mihoko Kinoshita

武蔵野音楽大学卒業。同大学院修了。二期会オペラスタジオ修了。日本音楽コンクール第1位、日伊音楽コンクール第1位、イタリア声楽コンクール・シエナ大賞を同一年度受賞。また新日鉄音楽賞、出光音楽賞、ヴェルディ国際コンクール第2位、ザンドナーイ国際声楽コンクール第2位、サンタ・マルゲリータ国際声楽コンクール第1位等数々の栄誉に輝く。早くから国内外にて当たり役『蝶々夫人』『タイトルロール』の繊細かつドラマティックな表現が高く評価される。またロリン・マゼールとスカニーニ・フィルで共演し、世界的巨匠からも賛辞が寄せられた。その後もアメリカを中心に国際的に活躍し、各国の劇場に出演。アメリカ在住。二期会会員



手嶋 眞佐子 (メゾソプラノ) Masako Teshima

東京藝術大学声楽科卒業。同大学院修了。大学卒業時に松田トシ賞受賞。文化庁オペラ研修所第11期修了。94年ブランド・ドミンゴ世界オペラコンテスト・メゾ・ソプラノ部門優勝。98年文化庁派遣芸術家在外研修員としてニューヨークにて研修。帰国後は、01年二期会創立50年記念公演『こもり』オルゴフスキーをはじめ、新国立劇場、小澤征爾音楽塾、日生劇場等のオペラに出演。コンサートでは東京交響楽団、札幌交響楽団、京都市交響楽団等と共演。09年にはクルト・マズア指揮、NHK交響楽団「第九」のソリストとして出演した。恵まれた美声、豊かな音楽性、存在感のある舞台姿で観客を魅了し続けている。上野学園大学教授。二期会会員



錦織 健 (テノール) Ken Nishikiori

国立音楽大学卒業。文化庁オペラ研修所第5期修了。文化庁在外研修員としてミラノに、また、五島記念文化財団の留学生としてウィーンに留学。第17回ジロー・オペラ賞新人賞、第4回グローバル東敦子賞、第1回五島記念文化賞新人賞、第6回モービル音楽賞洋楽部門奨励賞受賞。1986年「メリー・ウィドウ」カミュー役でデビュー以後、数多くのオペラ公演に出演、また宗教曲等のソリストとしても高く評価を受けている。2015年2月-3月にはプロデュース・オペラ第6弾『後宮からの逃走』を手がける予定等幅広く活動を行っている。



青戸 知 (バリトン) Satoru Aoto

東京藝術大学首席卒業、同大学院及び文化庁オペラ研修所修了。安宅賞、松田トシ賞受賞。文化庁在外派遣研修員として渡伊。二期会「ワルクレーレ」ヴォータンで大成功を収め、ジロー・オペラ賞新人賞受賞。新国立劇場開場記念『ローエングリン』出演以降、『フィガロの結婚』『魔笛』『椿姫』『青ひげ公の城』等で抜群の活躍を見せる。サヴァリッシュ、デュワ、アシュケナージ等、世界的指揮者と共演。殊にマラー「さすらう若人の歌」は他に比肩するものがないと絶賛されている。又、自らの演奏経験に基づいた学位論文で聖徳大学より博士の学位授与。理論に裏付けられた深い洞察による作品解釈は、演奏に一層の深みと柔軟性をもたしている。二期会会員



東京音楽大学 (合唱団) Tokyo College of Music

東京音楽大学(合唱団)は、1979年以来毎年続いている日本フィルハーモニー交響楽団「第九交響曲演奏会」をはじめ、国内外のオーケストラと数多くの共演をしている。2013年には日本フィルハーモニー交響楽団(広上淳一指揮:三枝成彰/レクイエム)、ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団(パーヴォ・ヤルヴィ指揮:ベートーヴェン/歌劇『フィデリオ』コンサート形式)に出演し、どちらも好評を博した。2014年は日本フィルハーモニー交響楽団(小林研一郎指揮:マラー/交響曲第2番「復活」)、NHK交響楽団(シャルル・デュワ指揮:ドビュッシー:歌劇『ペレアスとメリザンド』演奏会形式)への出演が予定されている。合唱指導は、阿部純、多田康芳、山本義人の各氏。

よこすか芸術劇場 座席表

※3階~5階のバルコニー席は作図上、変型表示してあります。
実際は2階バルコニー席と同形状です。

